



## しがないフリーター

---

ラジオから流れる音楽

雑誌をペラペラとめくる音

武「800円・・・750円・・・950円（ため息）あーねえなーいいバイトって」

携帯・呼び出し音

武「もっし〜」

電話の相手は恋人の加奈。

加奈「あ、たけ？なにしてるの？」

武「なにってバイト探し」

加奈「えーまだ探してるの？もう一週間じゃん」

武「だってないだもん、いいバイト」

加奈「はあ・・・もう駄目人間」

武「あーひでえ、ちょっと傷ついたぜ今の」

加奈「傷つくくらいなら仕事みつけろバーカじゃあねバイバイ」

電話切れる

武「（舌打ち）なんだよあいつ（ため息）」

雑誌をペラペラめくる音

武「900円・・・850・・・750・・・ん？1500円！いいねー！なになに、ビジネスライフサポート社、あなたの時間を、世界を舞台に飛び回るビジネスマン達に捧げてみませんか・・・なんだこりゃ？人材派遣か？・・・んー一固っ苦しいのは苦手なんだよな・・・」

雑誌をなげる

武「あー（伸び）・・・」

雑誌を拾う

武「背に腹はかえられないか・・・よし」

電話をかける

受付「はい、ビジネスライフサポート社です」

武「あ、もしもしー、バイト情報みて電話したんですけど」

## 怪しい仕事

---

ビジネスライフサポート社のオフィスへと足を踏み入れる武  
受付の女性に案内されるまま応接室へ  
黒革のソファへ腰を下ろす武に受付がお茶を差し出す。

受付「どうぞ」

武「あ、きょ、恐縮です」

受付「社長はただいま参りますので少々お待ちください」

武「はい」

ドアが閉まり女性が去っていく音

武「（ため息）やっぱ来るんじゃないかかも……とっとと済ませて帰ろ」

秒針の進む音

チッチチッチチチ

チッチチッチチチ

チッチチッチチチ

武「（咳払い）おせえな……」

秒針の進む音

チッチチッチチチ

チッチチッチチチ

チッチチッチチチ

武「よし、帰るか！」

社長「お忙しいですか？」

武「え？おわあ！い、いつからそこに居たんですか？」

社長「おせえな、辺りくらいからいましたよ」

武「そ、そうですか……すみません」

社長「不思議なものですよね」

武「え？……えっと何がですか？」

社長「時間ですよ、時間」

武「じかん……ですか」

社長「そう、例えば今アナタがお待ちになっていた時間は、どの位の長さだったかお分かりですか？」

武「え、いえ時計みてなかったんで……ちょっと」

社長「体感でいいですよ、どの位だっと思えますか？」

武「えっと……15分くらいですか？」

社長「まさか」

武「じゅ、10分くらいっすかね！」

社長「5分です」

武「……意外と短かったですね」

社長「そうですね、でもアナタは今お帰りになろうとしてましたね」

武「すみません」

社長「あー誤解なさないでください、決して嫌味をいう為に質問したわけじゃないんですよ、理解して頂きたかったのは時間の大切さです」

武「・・・はあ」

社長「時間とは不思議なものだとおもいませんか？今あなたはたった五分の時間の経過を3倍の15分と感じた、長いと感じた、そうですね？」

武「・・・はい」

社長「しかし、それはとても幸せな事です、うらやましい事なんですよ！」

武「はあ」

社長「それはなぜか！」

武「・・・・・・・・」

社長「なぜでしょう！」

武「・・・・・・・・な、なぜですか？」

社長「世界を飛び回ってる多くの優秀なビジネスマンは時間をとても短いと感じてらっしゃるからです！時間は買ってでもほしいと思ってる方々ばかりなんですよ！お分かりになりませんか？」

武「な、なんとなく」

社長「そこにビジネスチャンスがあったんです！」

武「はい」

社長「タイムイズマネー！時は金なりです！」

武「・・・・・・・・はい」

社長「買ってでも時間を手に入りたい方々に時間を提供しようじゃありませんか！」

武「ですね」

社長「そう、それにはアナタの時間が必要なのですよ！」

武「はい・・・あの俺には無理かとおもいます」

社長「ナゼ？」

武「いや、俺じゃなくて僕は、その、資格とかそういうのもないんで・・・」

社長「だから？」

武「だから・・・そんな凄い人達のお手伝いなんて出来ないと思うんですけど・・・」

社長「大丈夫です！アナタは何も心配せずにお仕事してください！」

武「あ、はい」

社長「一緒にがんばりましょう！」

武「あ、よろしく願います、あの履歴書を」

社長「いりません」

武「え、でも」

社長「印鑑はお持ちになって頂けましたか？」

武「あ、はい」

社長「ところで今日は何時間、お仕事されていけますか？」

武「え！今日ですか？いや、そんな」

社長「思い立ったが吉日です！」

武「あ・・・じゃあ8時間・・・」

社長「ありがとう！では、この書類に記入して」

武「はい・・・えっと名前だけかけばいいんですか？」

社長「あと、ここの就業時間のところに八時間とかいて、最後に印鑑を押してください」

武「はい・・・できました」

社長「拝見、うむ、では、これからよろしくお願いしますね」

武「あ、はい、こちらこそ」

社長「今日はお疲れ様でした」

武「はい・・・え？あの」

社長「なにか？」

武「僕これから仕事ですよ？」

社長「はは、山田さん初日から働きすぎはよくないですよ」

武「は？」

社長「さ、今日はもう宜しいですから、家に帰ってゆっくりお休みになってください」

武「はあ」

社長「今日の分のお給料は受け付けで頂いてください、お疲れ様です」

武「はい、失礼します」

社長「あ、山田さん」

武「はい」

社長「くれぐれも働きすぎにはご注意くださいね」

武「・・・え？」

とある喫茶店でお茶をする武と加奈

加奈「なにそれ？」

武「わかんない」

加奈「それでお給料でたの？」

武「うん」

加奈「いくら？」

武「時給1500円で八時間だから12000円」

加奈「でも働いてないんでしょう？」

武「うん」

加奈「それ絶対やばいよ、もしかして借金させられたんじゃないの？」

武「大丈夫でしょ、サインはしたけど、そういう紙じゃなかったし仮にそうだとっても法的に全然こっちが有利だよ控えの紙もあるしさ」

加奈「でも、絶対おかしいってそこ、もう行くの止めた方がいいよ絶対に」

武「でも・・・」

加奈「でもじゃないの、ほんとお願いだから、もう行かないでね、ね？」

武「・・・わかった」

## そして泥沼へ

---

ビジネスライフサポート社近辺を歩く武

武「とは、言ったものの・・・やっぱり美味しい仕事なんだよな・・・ん？」

野次馬の声

救急車のサイレン音

武「うわぁ会社の前じゃん」

\* \* \*

武「おはようございます」

受付「あ、山田さん、おはようございます」

武「いまビルの前で交通事故ありましたよ」

受付「そうですか、よくあるんですよ、この辺り不思議ですね」

武「・・・そうなんですか」

受付「そうなんですよ」

武「・・・あの、仕事しにきました」

受付「はい、では何時間働いていけますか？」

武「えっと・・・8時間？」

受付「ありがとうございます、ではここに、お名前と就業時間数をご記入して最後に印鑑を押し  
てください」

武「書きました」

受付「はい、確かに、ではお給料どうぞ」

武「あ、ありがとうございます」

受付「お疲れ様でした」

武「あの！」

受付「はい、どうされました？」

武「ぜんぜん仕事してないんですけど」

受付「まあ真面目な方ですね、山田さんは」

武「は？」

受付「それじゃあ、もう少し働いていきましょうか」

武「・・・・・・はい」

受付「では、何時間働いていけますか？」

武「・・・・・・ご、ご」

\* \* \*

超がつく高級レストラン

加奈「五十時間！」

武「うん」

加奈「なんで、そんな事いっちゃうの」

武「いや、試しにいったらさ」

加奈「それで、お給料は？」

武「その前8時間働いたから58時間で87000円っす」

加奈「だから奮発して、こんな所連れてきてくれたの？」

武「うん、まあ」

加奈「っていうか、なんで働いてるよ、もう行かないでね」

武「うん」

翌日

受付「おはようございます、山田さん今日は何時間働いていけますか？」

武「い、一万時間！」

その翌日

受付「おはようございます、山田さん今日は何時間働いていけますか？」

武「じゅ、10万時間！」

そのまた翌日

受付「おはようございます、山田さん今日は何時間働いていけますか？」

武「ひゃひゃく、100万時間！」

## 最後の仕事

---

### 三ツ星レストラン

加奈「は？」

武「だから結婚しよう」

加奈「なにいつてるの？出来るわけじゃない武就職してないし、それに結婚するのにお金だ  
って全然ないじゃん、いやよ、そんな無計画な結婚なんて」

武「これみて」

加奈「ん？通帳？なに少しは貯金したの？」

武「腰抜かすなよ」

加奈「はあ？一、十、百、千、万、・・・十万、ひゃ百万・・・いっせん・・・さ、さ、さ、  
三億！！」

武「腰抜かすなって」

加奈「なな何よこれ！」

武「だから結婚しよ」

加奈「ちょ、ちょっと待ってこんな大金どうしたのよ・・・もしかして例の仕事？」

武「うん」

加奈「やめてなかったの！やばいよこれ！おかしいって」

武「だから、明日で最後にするよ、そしたら家も買えて、一生遊んで暮らせるから」

加奈「こんだけあれば十分じゃない、それより」

武「明日で終わりにするから！」

加奈「・・・武」

武「大丈夫だよ」

\* \* \*

武「なんで！」

秘書「ですから山田さんは働かれ過ぎてもうお時間が一日分しかないんですよ」

武「あの意味わかんないんで、とりあえず働かせてくださいよ」

秘書「ですから1日分しかないんです」

武「だったらその一日分仕事します！」

秘書「(ため息)わかりましたでは、サインを」

武「かきました」

秘書「では、お給料です」

武「ども！」

秘書「今までご苦労様でした」

\* \* \*

ビジネスライフサポート社・前

武「意味わかんええな、あの人、まあいいや二度といかねえし、アバヨーーーなんちゃって、  
へへ・・・え？」

自動車の衝突する音

野次馬の声

救急車のサイレン音

\* \* \*

社長「どうかされました？」

秘書「いえ、ちょっと山田さんが」

社長「ん？あああれ山田さんですか、という事は寿命分の時間全部つかったんですね」

秘書「はい」

社長「あれほど働きすぎには注意してくださいと釘をさしたのに、まあおかげでお客様方には大変多くの時間を提供できましたけどね」

秘書「そうですね」

社長「君も時間を大切にしてくださいね」

秘書「はい」

社長「時間を売り切りするアルバイトはたいへんだあ はっはっは」

去っていく社長

ドア開く音

田中「おはようございます」

受付「あ、田中さん、おはようございます」

武「いまビルの前で交通事故ありましたよ」

受付「そうですか、よくあるんですよ、この辺り不思議ですね。ところで今日は何時間働いていけますか？」

終わり